



eコミュニティ・プラットフォームを活用した

災害ボランティアセンターの運用

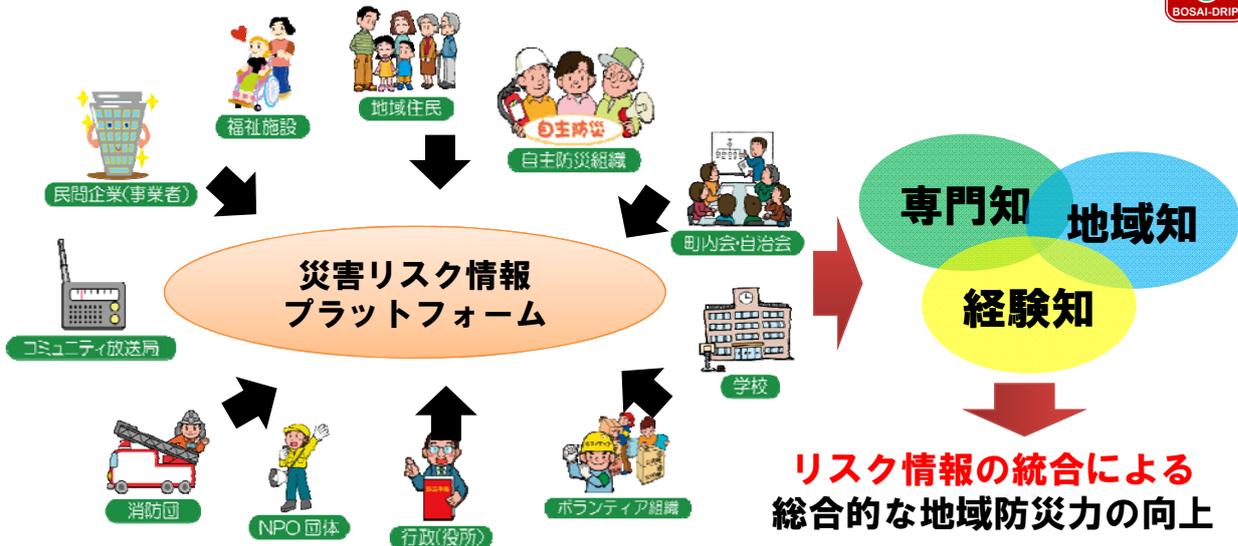
(災害VC運営支援キット・見守り情報管理システム)

H26.12

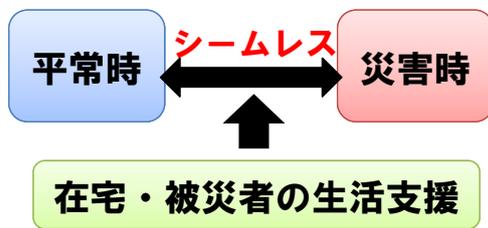
(独) 防災科学技術研究所



災害リスク情報プラットフォーム



- ・ **福祉関連**： 介護者・障害者等施設、保育所、幼稚園、小中高学校、PTA会、支援NPO団体など
- ・ **地域関連**： 町内会、子どもの会、シルバークラブ、FM放送局、〇〇実行委員会、商工会など
- ・ **防災関連**： 自主防災組織、避難所運営組織、自主防災グループ、消防団、消防署など



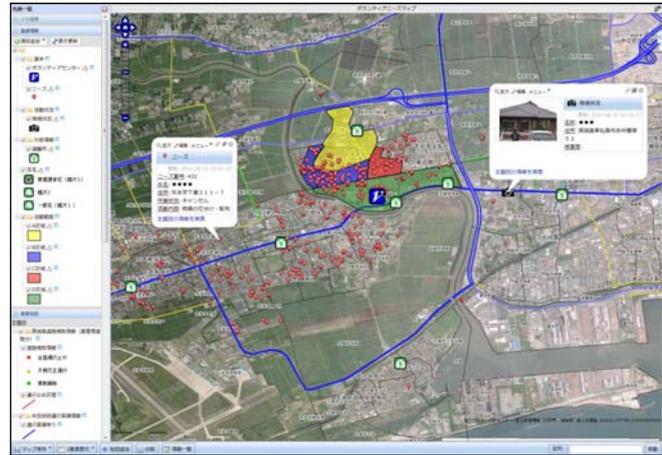
- ・ **多様な地域コミュニティの協働を誘発**
- ・ **地域の様々な主体の協力・連携**
- ・ **地域情報の管理・運用の一元化**

eコミュニティ・プラットフォーム（略称 e コミ）

知の統合ツール（道具）として開発した**参加型の情報基盤**であり、主に「**eコミグループウェア**」と「**eコミマップ**」で構成



「eコミグループウェア」



「eコミマップ」

宮城県内の災害ボランティアセンター

●背景

- ・2011年3月11日に発生した東日本大震災
- ・被災地の各県及び県下市町では、社会福祉協議会を中心とした災害VC設置

●災害ボランティアセンターの役割

- ・被災者からの復旧ニーズを発掘
- ・支援団体、一般ボランティアの受け入れと被災地への派遣
- ・外部からの救援物資の仕分け被災地への供給
- ・被災地内での炊き出しや避難者支援 等々

⇒被災地の地域復旧に重要な役割

外部へ支援を呼びかけるための被災情報の発信、さらには復旧活動のための地域状況や被災状況が把握・集約できる仕組みが必要



宮城県内の災害ボランティアセンター

●東日本大震災直後の災害VC(宮城県) 状況

・建物をはじめ、災害対応のための情報機材がほとんど流失

⇒被災状況の確認・集約、外部への支援の呼びかけや情報発信が難しい状況(移転・臨時開設)



・地域内外からの災害ボランティアと協力しながら復旧活動

⇒土地勘のないボランティアであるため、被災前の住宅地図の整合が取れない、移動経路の寸断などにより、活動に支障



・行政、自衛隊、支援団体との情報共有が行われていない

⇒支援が届かないまたは一部の避難場所に集中するような支援の偏り



災害ボランティアセンターのeコミの活用例

●災害情報プラットフォームを利用していない場合



紙地図とエクセルデータ
(ニーズなど)の別途調整



紙地図のコピー、繋ぎ合せ



付箋等による活動場所
の確認、廃棄



eコマを利用した災害VCのプラットフォームの構築



アクセス
⇔
情報共有



アクセス ⇔ 情報共有



宮城VCを中心にグループを構築し、各VCサイトへのアクセス一元化と情報共有

災害ボランティアセンターのeコマ構成



・eコマグループウェア：インターネットクラウドSaaSによるVC状況の発信

【VCについて】
住所や連絡先等、VCの基礎情報を掲載。

【災害VC情報】
県内各VCページの一覧。各VCページへジャンプ。

【様式】
ボランティア活動に役立つ情報をPDFで登録。

【お問合せ】
指定フォームで問い合わせを受け付け。

【リンク】
災害情報を発信している外部ページのバナー。

【ACカウンター】
：日/週/月/合計のアクセス数が自動表示・更新。



【VCからのお知らせ】
ボランティア活動に関する新たなお知らせを発信。

【災害ボランティア申込】
事前にインターネットからボランティアの申込が可能。

【募集・寄付のお願い】
ボランティアの募集案内や物資の寄付の案内。

【ボランティア活動状況】
ボランティア活動人数やニーズの対応件数を掲載。

【宮城県VCのお知らせ】
宮城県VCからの役立つ情報が即時に自動更新。

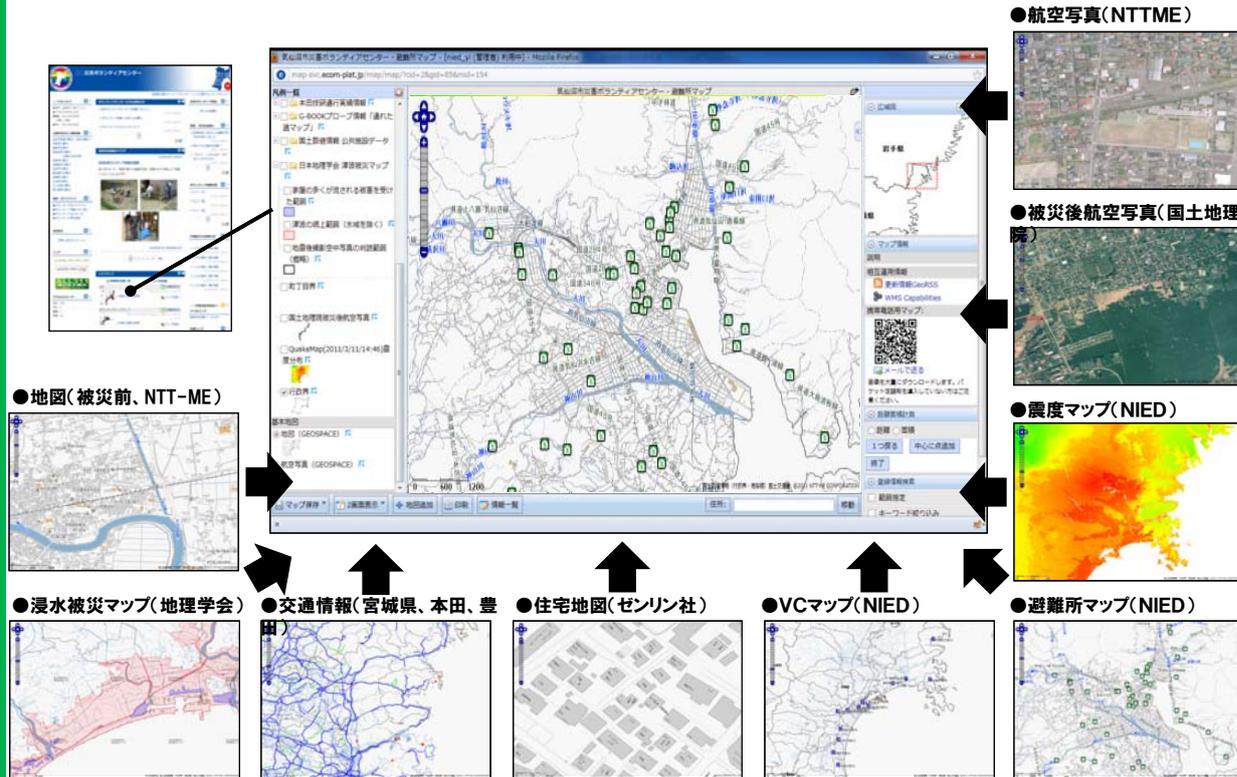
【復旧支援活動のブログ】
毎日のボランティア活動様子を写真付きで発信。

【eコママップ】
各種マップ作成による地域状況可視化・データ管理。

災害ボランティアセンターのeコミ構成



・eコミマップ：相互運用環境による様々な空間情報の活用・発信



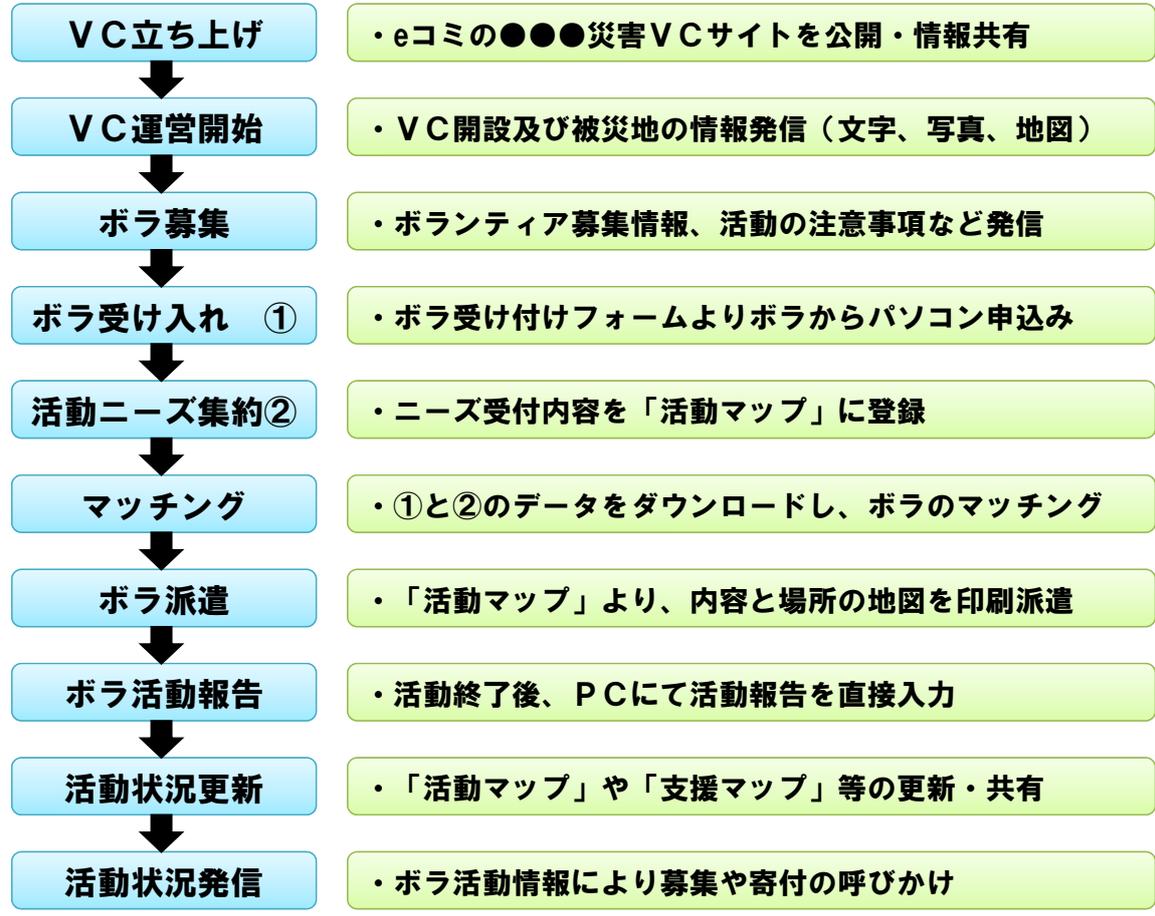
災害ボランティアセンターのeコミの活用例



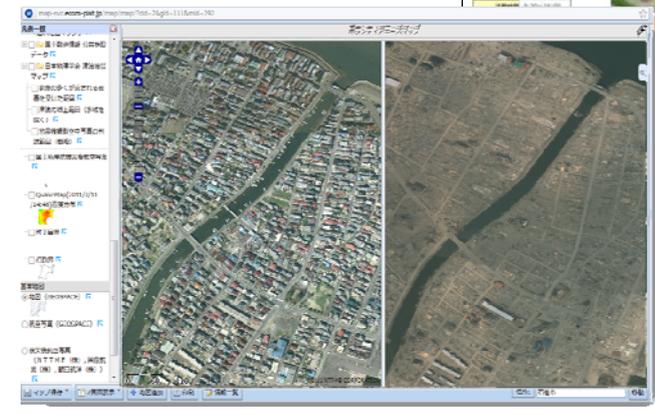
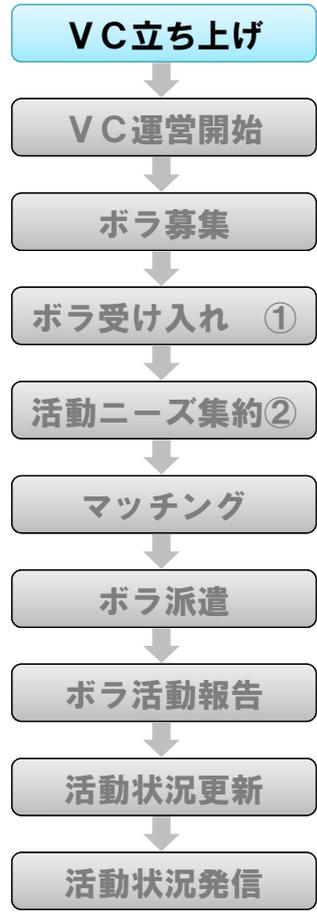
●災害情報プラットフォームを利用した場合

- 地図の作成・確認 (Map creation and confirmation)
- 地図の印刷 (Map printing)
- 活動調整・確認 (Activity adjustment and confirmation)
- 活動内容の掲示・共有 (Posting and sharing of activity content)

●災害VC運営の流れ(宮城の事例)

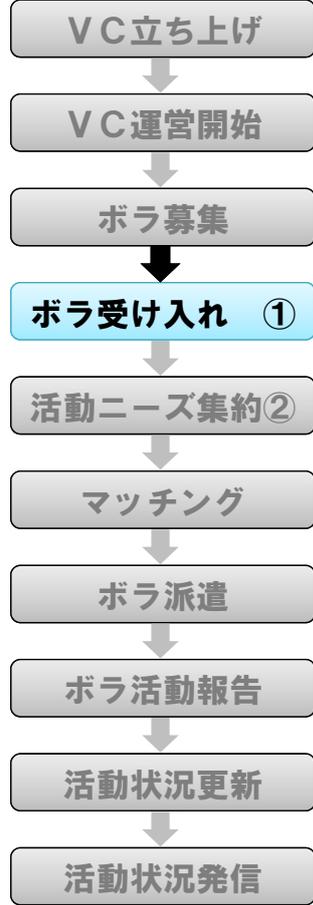


●災害VC運営の流れ ●eコミの利活用



- ・広報班にeコミのアカウント(ID・PW)を付与
- ・災害VCサイトを公開・情報共有開始
- ・被害状況の確認

●災害VC運営の流れ ●eコミの利活用



ボランテア受付用紙

ボランテアの方へのお願い・重要なお知らせ

2011年4月01日 9時51分

ボランテア保険への加入のお願い

ボランテア活動中の様々な事故によるケガや損害賠償責任を保障する保険があります。活動場所と自宅の往復途上の事故も補償の対象となります。ボランテア自身の食中毒や特定感染症、熱中症も補償されます。居住地等の社会福祉協議会で「ボランテア保険（天災付）」に加入いただけますようお願いいたします（自己負担が原則です）。災害復旧作業に尽力している被災地の負担を少しでも軽減させるため、ご理解とご協力をお願いいたします。

提供可能な車両の種類
車両の燃料は支給いたしませんので、ご理解のうえご記入願います。

災害ボランティア申込

名前 ※必須項目

フリガナ ※必須項目

自宅住所 ※必須項目

電話番号 ※必須項目

メールアドレス ※必須項目

職業 ※必須項目

学生（高校生） 学生（大学生） 社会人 その他

活動できる内容 ※必須項目

連絡、仕分け 介護 屋内外の（子ども・子ども以外） 日常生活

理師・栄養士 介護福祉士 手技士 大工 外国語 運転免許

必須項目

- ・ボラ募集様式に合わせて受け付けフォームの設定
- ・ボラからパソコン申込み（遠隔と現地）
- ・その他、保険や活動内容等の周知

●災害VC運営の流れ ●eコミの利活用



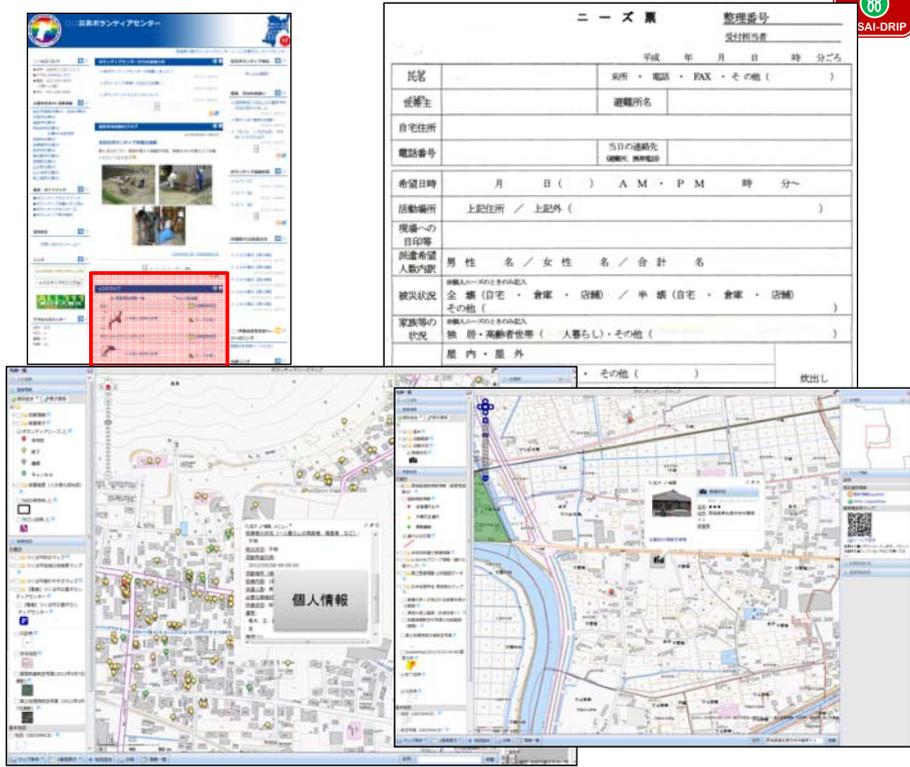
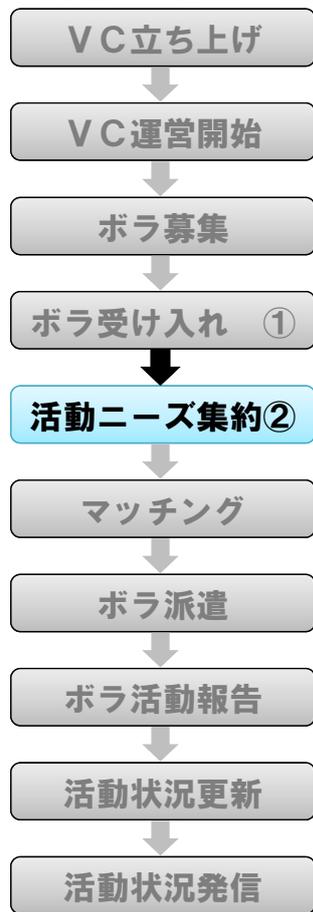
個人情報

個人情報

送信ID	10547-00518
日時	2012/05/11/ 18:57:12
受け付け場所	市役所VC
お名前	長西 薫
フリガナ	カサイ
性別	女
自宅住所	千葉県
電話番号	090-25
メールアドレス	
緊急連絡先	0173-73-2014
緊急連絡先のお名前	
活動予定日	5月18日、22日
活動場所	個人
活動形態	
団体参加の場合、団体名	
平成23年度ボランティア登録・保険	①加入した
平成24年度ボランティア活動保険	①未加入(本日加入)
上記の加入プラン	
災害ボランティア以外のボランティア活動	
付記・メッセージ	5月18日、22日可
備考	

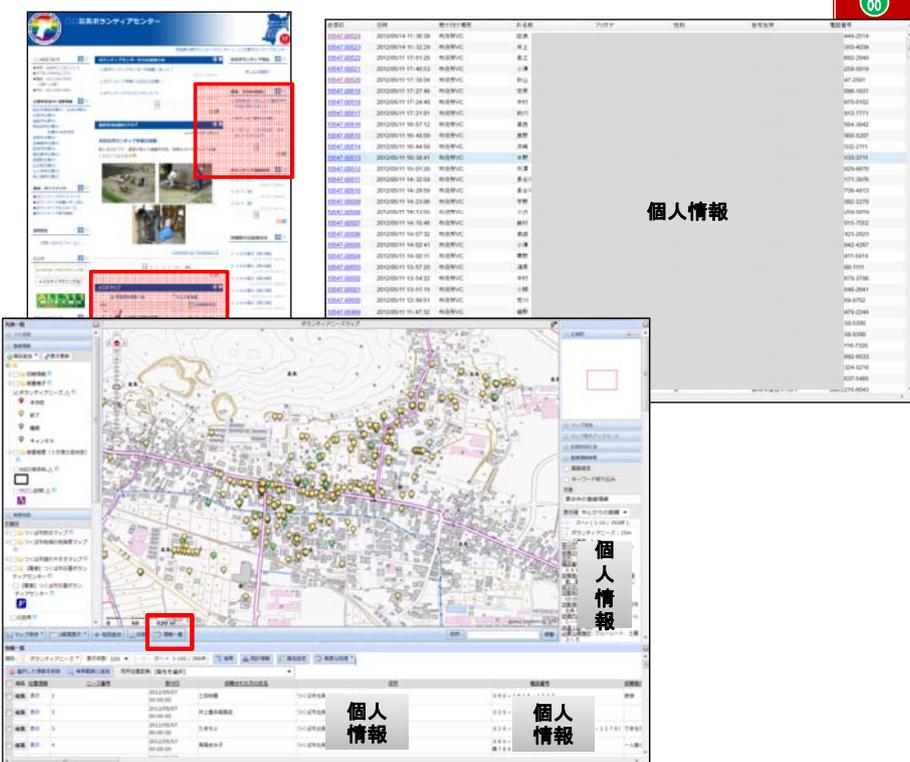
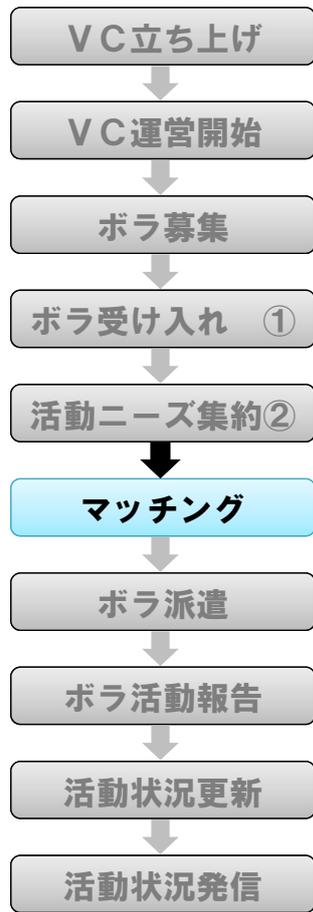
- ・ボラ募集状況のデータ管理（CSV形式）
- ・登録データの個票印刷
- ・保険情報の設定・管理可能

●災害VC運営の流れ ●eコミの利活用



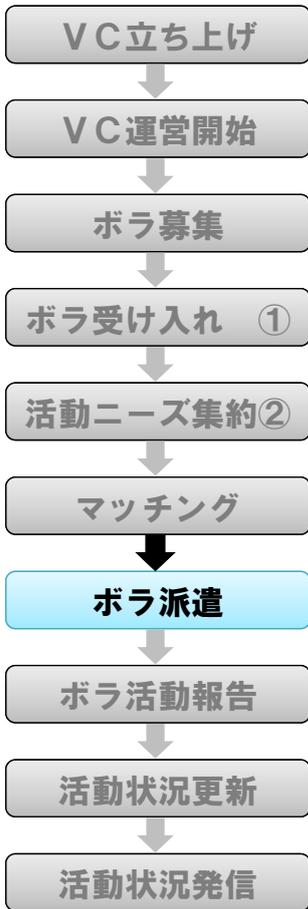
- ・活動ニーズ様式に合わせて「活動マップ」の項目設定
- ・ニーズ受付内容をマップに登録（未対応、終了、継続、キャンセル）
- ・現地状況のリアルタイムな活動ニーズ収集

●災害VC運営の流れ ●eコミの利活用



- ・①の「ボラ受け付け一覧」、②の「活動ニーズ一覧」のデータをダウンロードし、ボラのマッチング

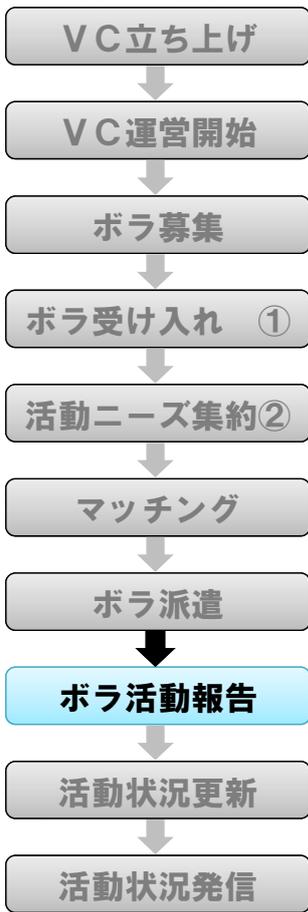
●災害VC運営の流れ ●eコミの利活用



The image shows a screenshot of the VC platform interface on the left, displaying a list of activities and a map on the right. The map is titled 'ボランティアニーズマップ' (Volunteer Needs Map) and shows a grid of activity locations. A '個人情報' (Personal Information) box is overlaid on the map, indicating that the map is only visible to group members. Below the map is a printer icon, suggesting that the map can be printed for on-site distribution.

・「活動マップ」より、活動内容と活動場所がわかる地図を印刷し、ボラを現地派遣

●災害VC運営の流れ ●eコミの利活用



The image shows a screenshot of the VC platform interface on the left, displaying a list of activities and a map on the right. The map is titled 'ボランティアニーズマップ' (Volunteer Needs Map) and shows a grid of activity locations. A '個人情報' (Personal Information) box is overlaid on the map, indicating that the map is only visible to group members. Below the map is a printer icon, suggesting that the map can be printed for on-site distribution.

災害支援受付帳 調整担当者 災害ボラセン 様式10

ボランティア活動終了報告書

派遣率: _____

報告者氏名: _____ 活動人数: 男 _____名
女 _____名 合計 _____名

日時: 平成 _____年 _____月 _____日 _____時 ~ _____時

具体的にを行った活動内容はどのようなものでしたか。

避難所のお手伝い 避難所の片付け 話し相手
 被災者の安否確認 要援護者への配食・買物 日常生活支援
 物資の調達・運搬・仕分け 移送・付届け等 子どもの相手
 その他 _____

活動したうえで困った点はありませんか。(ボランティアの派遣人数は満員であったか等)

人数が足りなかった 人数が多すぎた 必要な資材がなかった
 説明された内容と違った 危険な場所・作業があった 無理な依頼をされた
 その他 _____

活動内容

今日で活動は終了しましたか。

・終了した → 引き続き派遣要望がありましたか [あり・なし・不明]
 「あり」の場合、作業完了まで何日間程度必要と思われますか
 → () 日間程度

その他 [他機関(福祉関係・災害対策本部・民生委員・避難所等)へ相談が必要など]

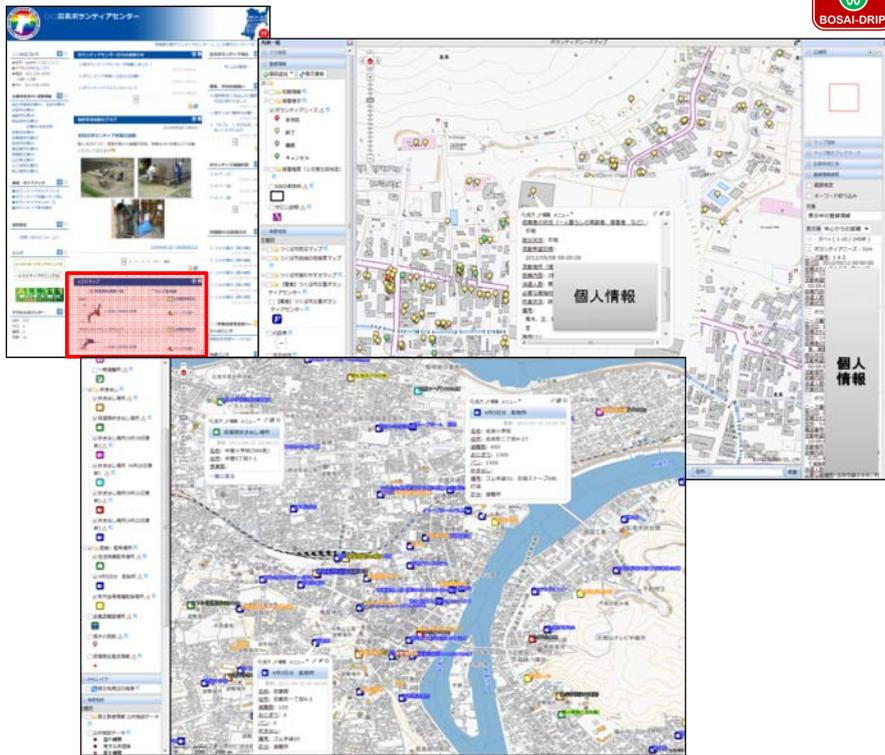
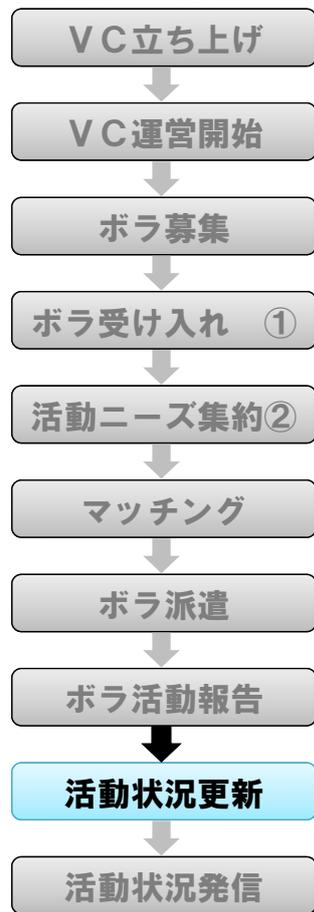
感想

※活動前～報告受付者記入欄

チェック → 派遣ボランティアが全員戻っているか確認
 継続対応 依頼事項終了 特記事項 _____

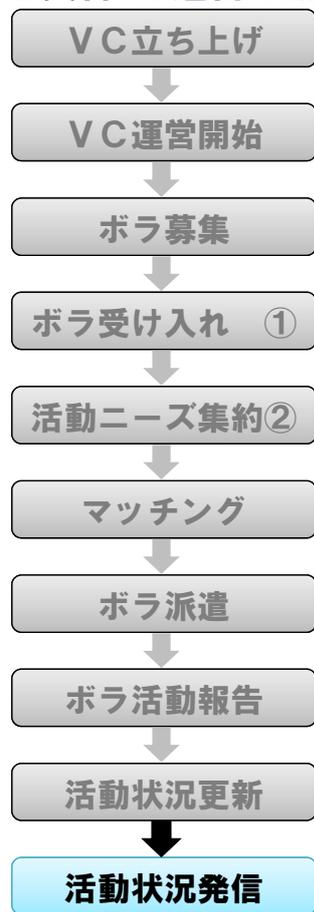
・ボラ報告様式に合わせて報告フォームの設定
 ・活動終了後、活動報告PCにて直接報告内容を入力

●災害VC運営の流れ ●eコミの利活用



- ・活動報告より「活動マップ」更新（未対応、終了、継続、キャンセル）
- ・他の支援団体と炊き出しや物資配布などの状況のマップ登録・活動調整（アカウント付与）
- ・定期的な地図印刷による活動進捗状況の共有

●災害VC運営の流れ ●eコミの利活用

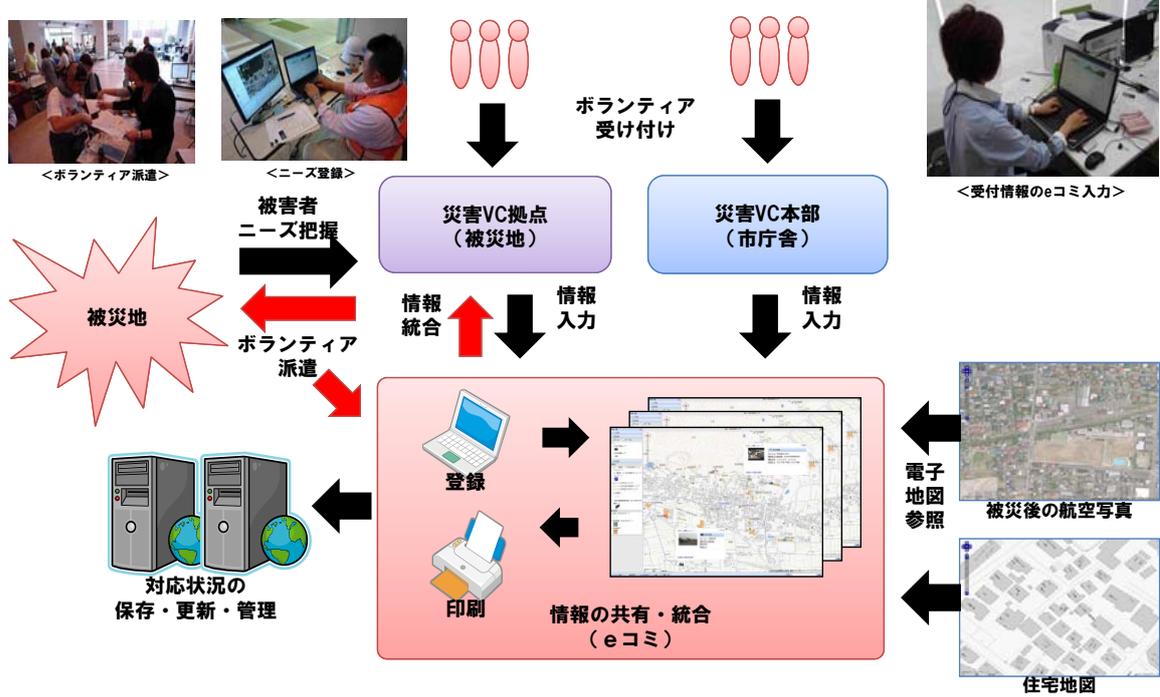


- ・ボラ活動情報の発信（文字、写真）
- ・さらなるボラ活動や資機材の呼びかけ

つくば市竜巻災害対応での活用

・eコミの災害ボランティアセンターサイトを構築し、2カ所の災害VC(災害VC本部及び現地災害VC)で運用

➡ 災害VCではeコミマップを使った地図印刷、2カ所の離れた災害VC間のeコミグループウェアによる情報共有が可能。



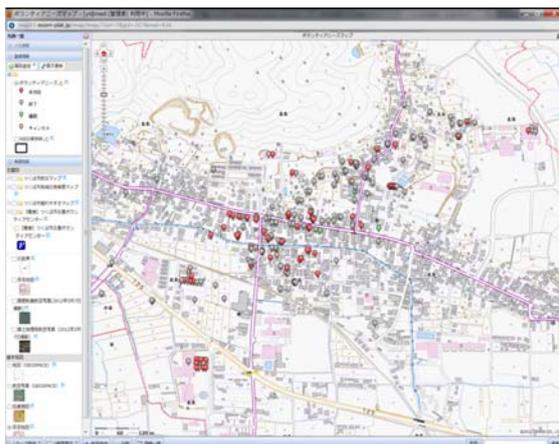
eコミによるボランティア活動状況の管理

・現地災害VCでは、被災者から把握・集約したボランティアニーズをeコミマップに登録。

➡ ボランティアの活動場所と活動内容が示された地図(住宅地図)を土地勘のないボランティアに印刷・提供して現地へ派遣。

・被災者からのニーズに対するボランティア活動状況をeコミマップに登録(「未対応」「継続」「終了」)し、対応状況を可視化しながら管理。

➡ 災害VC本部では、これらの対応状況をリアルタイムで共有・把握しながらボランティア受け付けを調整。(5月15日、災害VC本部を閉鎖)



<eコミマップでの対応状況管理>

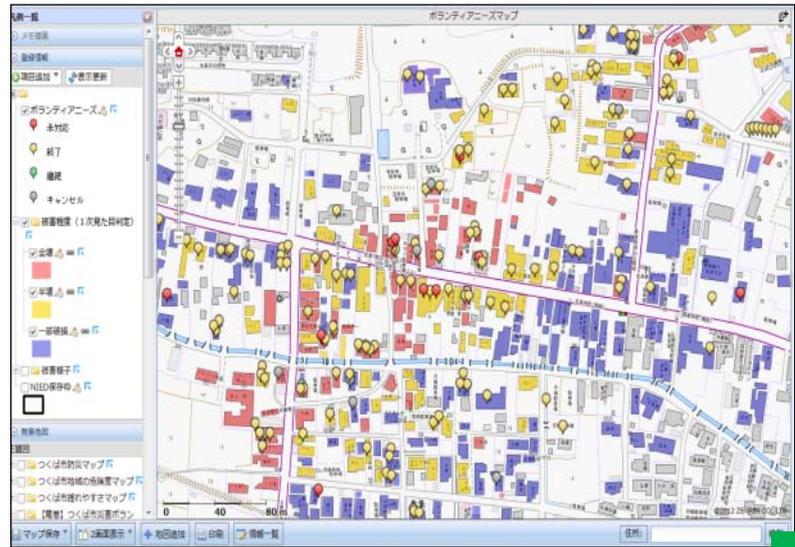
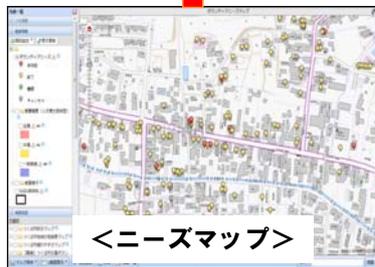


<印刷したボランティア派遣マップ>

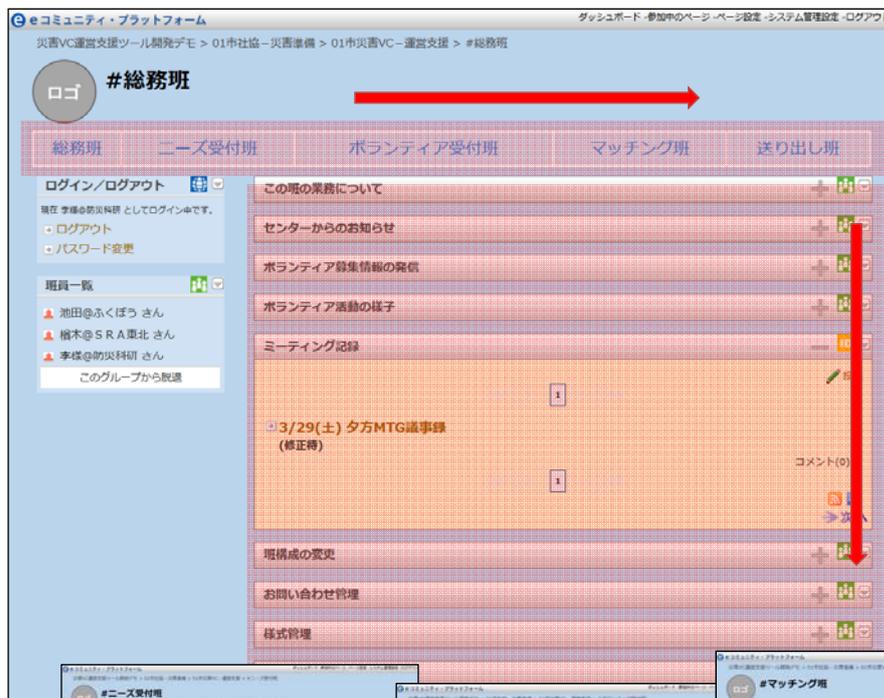
eコミによる被害情報の共有・活用

- ・災害VCでは、被災者からのボランティアニーズを把握しボランティアを派遣・対応した、ボランティアニーズマップを作成
- ・つくば市消防では、被災地を調査し、被害判定(1次見在目判定)マップを作成。

➡ これらの情報を共有することで、災害VCでは、つくば市消防が作成した被害判定(1次見在目判定)マップを、ボランティアニーズマップと重ね合わせ、被害があったが活動していない家を中心にニーズ把握。



災害VC運営支援キットの構築（案）



・災害VCの構成に応じた作業班の選択

・各班の業務内容に応じたタスク管理

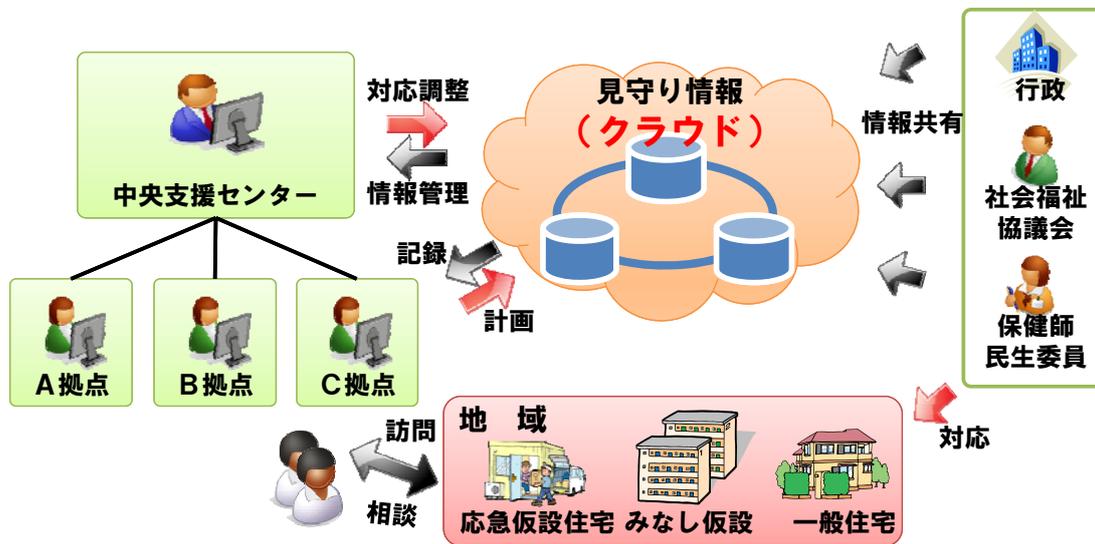


見守り情報管理システムの開発

●見守り情報管理システムの開発

- ・ 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会と協力
- ・ 2011年7月から宮城県内の被災者生活サポートセンターを対象に被災者生活支援業務分析

➡ **生活支援に必要な情報をクラウド環境で共有・管理**できるツールとして、「見守り情報管理システム」を開発。



本システムの主な機能と特徴について

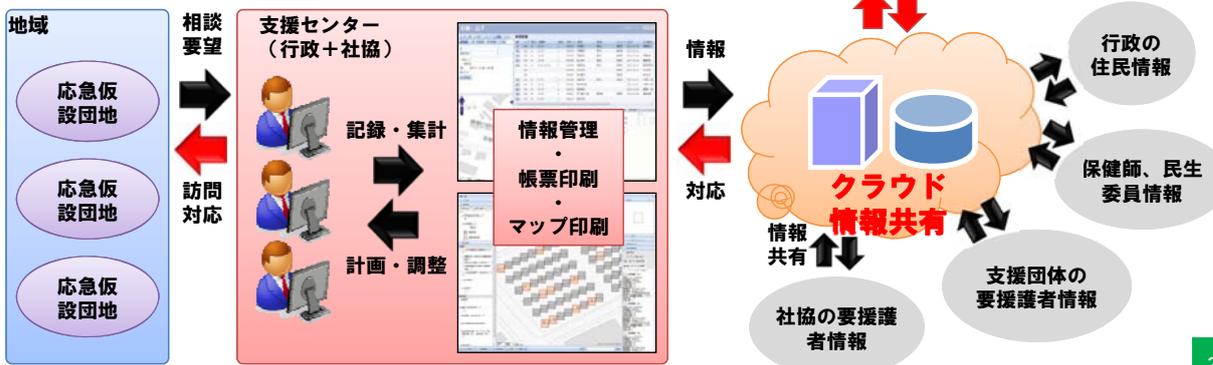
●見守り情報の一元管理

- ・ **地域情報**：仮設住宅の地域または団地、エリアなど。
- ・ **住宅情報**：仮設住宅名や住宅形態、仮設住宅の部屋番号や空室状況、被災者が入居している仮設住宅の間取りなど。
- ・ **世帯情報**：入居及び退去の日付や理由などの入居情報、世帯構成、入居人数、家族状況、罹災証明や義捐金などの各種支援金の申請状況、物資配布状況など。
- ・ **個人情報**：個人基本情報、就労状況、健康状態、障害程度、困っていることなど。
- ・ **支援情報**：担当者、担当班、担当エリア、対象者リスト、訪問希望日や頻度、巡回及び訪問の予定と実績、長期不在世帯や懸念世帯状況、各種相談や要望など。
- ・ **対応情報**：対応者・団体、対応内容・結果、懸念事項、対応モデルケースなど。

●被災者情報の整理・集約（入力・更新）

●被災者情報の集計（作成・印刷）

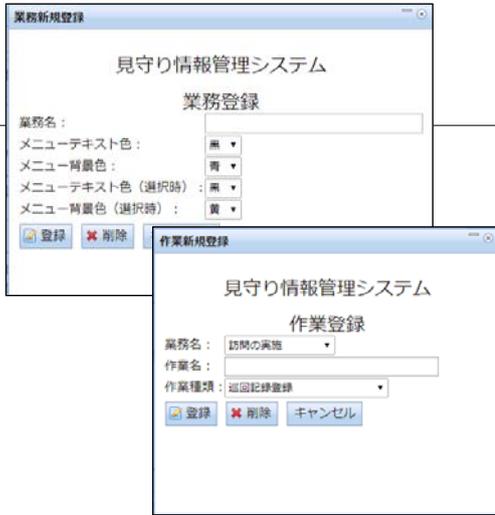
●被災者情報の管理（対応調整）



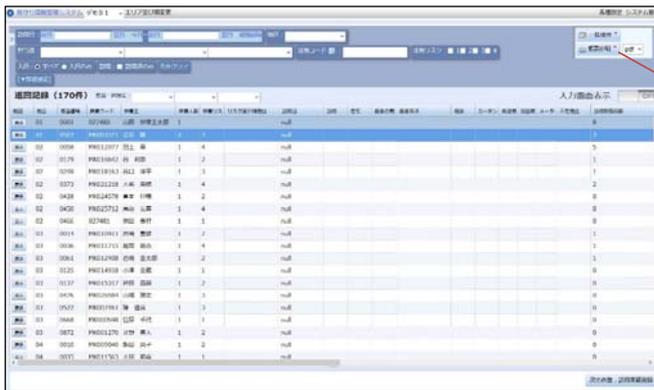
本システム画面イメージ



・スタート画面にて、「業務名」及び「作業名」のカスタマイズ・登録・管理



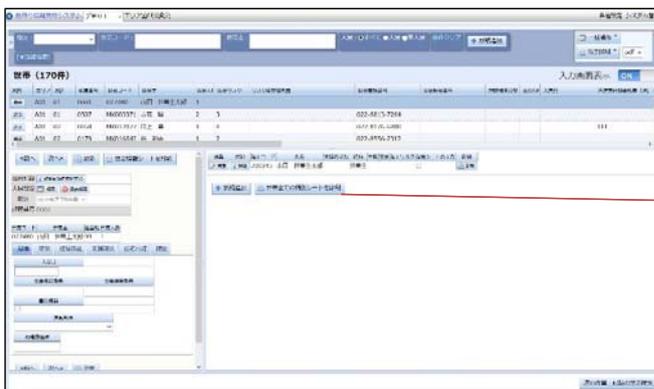
本システム画面イメージ



検索・閲覧画面

・「入力作業」と「検索（閲覧）」を考慮した二つの画面構成・選択可能

様式印刷
記入用紙印刷
結果印刷



入力作業画面

